

2018（平成30）年度 事業報告

当財団は、平成26年4月の公益財団法人移行後、ピースおおさかの常設展示の抜本的なリニューアルに取り組み、戦後70年目の平成27年4月に「大阪空襲を語り継ぐ平和ミュージアム」としてリニューアルオープンした。開館25年目となる平成28年11月には来館者200万人を達成し、今年1月にはリニューアル後の来館者が20万人を超えた。

アンケートによると新たな展示には多くの方が好感を示しており、このことから館の認知度を一層高めるとともに、常設展示を核とした事業活動の実施に努めた。

また、「中期経営計画」の4年度目にあたり、「戦争の悲惨さ・平和の尊さを次の世代に伝える」という法人のミッションを再確認し、引き続き最重要目標である入館者数をはじめとする利用者増に向けて、各種事業の展開や来館者へのサービス向上を図った。

特に、教職員等を対象とした研修活動、著名人を招いての発信力の強化、さらに土日の利用者増を視野に置いた近隣の自治会や企業との連携強化について、行政とともに取り組んだ。

併せて、自主財源の確保に努め、これまでに蓄積してきた所蔵資料の活用や関係機関などとの協力・連携を深めながら、創意工夫により魅力ある特別展や企画事業等を実施し、入館者は69,539人（うち、小中学生は40,951人、外国人は5,049人）となった。

戦後生まれがわが国総人口の8割を超え、戦争を自らの体験として語る方がますます少なくなる中、当財団の役割はますます重要になることから、「大阪空襲の犠牲者を追悼し、平和を祈念する」「戦争の悲惨さ及び平和の尊さを次の世代に伝え、平和を願う豊かな心を育む」という目的に沿って、限られた人的・物的資源の中、最善を尽くした。

1. 展示事業

(1) 常設展示等

2階展示室

Aゾーン：昭和20年、大阪は焼き尽くされた

Bゾーン：世界中が戦争をしていた時代

Cゾーン：戦時下の大阪の暮らし

スロープ

空襲体験者の「証言と体験画の回廊」

1階展示室

Dゾーン：多くの犠牲を出し、焼け野原になった大阪

3階展示室

Eゾーン：たくましく生きる大阪

Fゾーン：私たちの未来をつくっていくために

映像コーナー

図書室

映画の定時上映（講堂）

※展示の多言語化（英語表記追加）を実施した。

(2) 特別展示

所蔵資料の活用や関係機関・団体の協力を得ながら実施した。

①「ピースおおさか収蔵品展 2018」

〈趣 旨〉 2017（平成 29）年度に寄贈された資料の一部を紹介した。これらを多くの方にご覧いただき、戦争の悲惨さと平和の尊さについて考える機会とした。

〈期 間〉 2018（平成 30）年5月2日（水）～7月1日（日）

〈内 容〉 収蔵品 約40点

〈参加者〉 13,539名

②「ミニミニ原爆展」

〈趣 旨〉 原爆被害の概要及び広島・長崎の被災資料写真、被爆後の惨状写真、被爆者の写真などを展示し、原爆そして戦争の恐ろしさや平和の尊さについて考える機会とした。

〈期 間〉 2018（平成 30）年7月17日（水）～9月16日（日）

〈内 容〉 写真解説パネル 20枚、実物資料 約20点

〈参加者〉 9,823名

③「慰問からみる戦争」

〈趣 旨〉 「慰問」というテーマから、戦時中の人びとのくらしやつながりに焦点をあて、戦争や平和について考える機会とした。

〈期 間〉 2018（平成 30）年10月16日（火）～12月27日（木）

〈内 容〉 収蔵品 約60点

〈参加者〉 26,165名

④「未来に託す戦世（いくさゆ）の記憶」

〈趣 旨〉 沖縄戦の展示から戦争の経緯や実相を学び、戦争の悲惨さを感じるとともに証言映像で体験者の声に触れ、恒久平和について考える機会とした。（主催：沖縄県平和祈念資料館 共催：ピースおおさか）

〈期 間〉 2019（平成 31）年1月17日（木）～2月14日（木）

〈内 容〉 パネル・実物資料の展示、体験者多言語証言映像の公開

〈参加者〉 5,340名

⑤「カティンの森事件 —22,000人のポーランド人将校の行方—」

〈趣 旨〉 ポーランドをテーマに、その歴史上で起きたカティンの森事件を取り上げ、戦争の悲惨さを考える機会とした。

（日本・ポーランド国交樹立100周年（1919～2019）記念事業）

〈期 間〉 2019（平成 31）年3月1日（金）～3月31日（日）

〈内 容〉 写真解説パネル、文献展示

〈参加者〉 4,294名

(3) その他の展示

講堂前ホール：いのちへのメッセージ

(4) ワークショップスペース（3階）の有効活用

学校と連携した平和学習に関する資料の展示など有効活用を図った。

2. 企画事業

(1) 平和祈念事業

終戦の日、開戦の日、大阪大空襲の日など節目の時期に、戦争の悲惨さと平和の尊さについて考える機会として開催した。

① 終戦の日平和祈念事業

＜実施日＞ 8月10日（金） 午後1時30分～午後4時

「落語と歌で伝えたい平和の想い」

＜内 容＞

ナビゲーター：もず唱平（作詞家・ピースおおさか特別顧問）

第1部：平和を歌おう

ゲスト：高林こうこ（作詞家）

歌：高橋樺子（徳間ジャパンコミュニケーションズ）

第2部：平和を語る

落語：桂春蝶

「ニライカナイで逢いましょう～ひめゆり学徒隊秘抄録～」

＜参加者＞ 241名

＜実施日＞ 8月15日（水） 午後2時～午後3時30分

「戦争犠牲者追悼式と平和コンサート」

＜内 容＞ （協力：学校法人 相愛学園）

平和コンサート

相愛中学校・相愛高等学校音楽科生徒による合唱

相愛大学音楽学部卒業生による演奏

菊一輪 献花、昇鶴祭

＜参加者＞ 228名

② 開館の日平和祈念事業

＜実施日＞ 9月16日（日） 午後1時30分～午後4時

「学童疎開の記憶よ、時代とともにサヨナラか」

＜内 容＞ （協力：国民学校と学童疎開を考える会）

第1部：映画上映「みんなわが子」

第2部：学童疎開体験者等によるシンポジウム

コーディネーター：赤塚康雄（元 天理大学人間学部教授）

パネラー：奥田継夫（児童文学作家「ボクちゃんの戦場」原作者）

吉田房彦（国民学校と学童疎開を考える会）

米倉澄子（国民学校と学童疎開を考える会）

＜参加者＞ 129名

③ 開戦の日平和祈念事業

＜実施日＞ 12月2日（日） 午後2時～午後3時45分

「落語と平和 ～ピースおおさか平和寄席～」

＜出演者＞ 桂春之輔、桂文三、桂吉之輔、桂紋四郎

＜参加者＞ 231名

④ 大阪大空襲の日平和祈念事業

日本・ポーランド国交樹立 100 周年（1919～2019 年）記念事業

<実施日> 3月10日（日） 午後2時～午後3時45分

「日本とポーランド 実は近い国（親(ちかい)国）?!」

<内 容> （後援：駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター）

第1部：「『ポーランド』ってどんな国？」

ユスティナ・ログスカ（ポーランド広報文化センター副所長）

第2部：「日本とポーランド～1世紀以上にわたる強い絆～」

河添恵子（ノンフィクション作家）

<参加者> 298名

(2) 平和学習講座

「教員のための平和学習」

<日 時> 7月27日（金） 午前9時45分～正午

8月3日（金） 午前10時～正午

<内 容> 7月27日：平和紙芝居、館内見学

8月3日：館内見学、フィールドワーク（大阪城周辺の戦跡）

<参加者> 25名

(3) 戦跡ウォーク

<日 時> 毎月第2日曜日（5、8、9、12、2、3月除く）

<内 容> 館内見学、大阪城周辺の戦跡を巡る（中回り・東回り・西回りコース）

<参加者> 120名

(4) ウィークエンド・シネマ

<日 時> 毎週土曜日 午後2時～（3月除く）

<内 容> 所蔵視聴覚資料（ビデオ・DVD・16ミリ）を上映

<参加者> 2,958名

(5) ウィークエンド・シネマ特別企画（映画「カティンの森」上映会）

<日 時> 3月の毎週土曜日 午後2時～

<内 容> 特別展開催にあわせ、映画「カティンの森」を特別上映

<参加者> 951名

(6) 親子まつり

ゴールデンウィーク、夏休み、春休み期間にアニメ映画を上映した。

① ゴールデンウィーク

<日 時> 4月29日（日）～5月6日（日） 午後2時～

<内 容> 「つるにのって」等の上映

<参加者> 24名

② 夏休み

<日 時> 7月22日（日）～8月26日（日） 午後2時～

<内 容> 「夏服の少女たち」等の上映

<参加者> 472名

③ 春休み

- <日 時> 3月24日(日)～4月7日(日) 午後2時～
<内 容> 「ガラスのうさぎ」等の上映
<参加者> 142名

(7) 平和紙芝居

- <日 時> 第1・2木曜日 午前10時～午前10時20分
第3・4金曜日 午前10時～午前10時20分
<参加者> 1,473名

(8) 府政学習会・ピースおおさか見学会「平和について学ぶ」

- (大阪府府政情報室との連携事業)
<参加団体> 2団体
<参加者> 162名

(9) 生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪 2018

- (大阪市都市整備局企画部住宅政策課事業への協力)
<日 時> 10月27日(土)～28(日) 午前10時～、午後2時～
<内 容> ガイドツアー(館内および屋上見学)
<参加者> 58名

(10) ピースおおさか絵画教室

- (大阪府、大阪市教育委員会、株式会社サクラクレパス協力事業)
<日 時> 8月18日(土)、21日(火) 午前10時～正午
<参加者> 78名

(11) 特別事業「歌でたどる平和のみち」

- <日 時> 2月10日(日) 午後2時～午後3時30分
<出演者> BORO(ミュージシャン)
<参加者> 217名

3. 出前事業

(1) 出前展示

パネル・実物資料の展示、ピースおおさか紹介ビデオの放映、パンフレットの配布等を実施し、将来の来館につながるよう展示内容の工夫、実施場所の開拓等に努めた。

① 大阪市立平野図書館

- <日 時> 5月2日(水)～5月30日(水)
<場 所> 大阪市立平野図書館
<内 容> パネル展示、パンフレットの配布等
<参加者> 19,051名

② 大阪市立大正図書館

- <日 時> 6月1日(金)～6月28日(木)
<場 所> 大阪市立大正図書館
<内 容> 実物資料展示、パンフレットの配布等
<参加者> 4,203名

③ 大阪市立旭図書館

＜日 時＞ 5月18日（金）～6月20日（水）
＜場 所＞ 大阪市立旭図書館
＜内 容＞ 実物資料展示、パンフレットの配布等
＜参加者＞ 15,825名

④ 戦後73年大阪戦没者追悼式（大阪府・大阪市共催）

＜日 時＞ 8月3日（金）
＜場 所＞ 大阪国際交流センター
＜内 容＞ パネル展示、パンフレットの配布等
＜参加者＞ 637名

⑤ 大阪市立総合生涯学習センター

＜日 時＞ 8月11日（土）～8月21日（火）
＜場 所＞ 大阪市立総合生涯学習センター5階
＜内 容＞ パネル・実物資料展示、パンフレットの配布等
＜参加者＞ 多数来場

⑥ イオンモール 鶴見緑地

＜日 時＞ 10月9日（火）～10月16日（火）
＜場 所＞ イオンモール 鶴見緑地
＜内 容＞ パネル展示、パンフレットの配布等
＜参加者＞ 210,363名

⑦ 中央区民まつり

＜日 時＞ 10月21日（日）
＜場 所＞ なにわの宮跡
＜内 容＞ パネル展示、パンフレットの配布等
＜参加者＞ 49,000名

⑧ 大阪市立天王寺図書館

＜日 時＞ 10月2日（火）～10月31日（水）
＜場 所＞ 大阪市立天王寺図書館
＜内 容＞ 実物資料展示、パンフレットの配布等
＜参加者＞ 18,097名

⑨ 大阪府立中央図書館

＜日 時＞ 11月29日（木）～12月16日（日）
＜場 所＞ 大阪府立中央図書館（東大阪市）
＜内 容＞ パネル・実物資料展示、パンフレットの配布等
＜参加者＞ 27,656名

⑩ 大阪市立東成図書館

＜日 時＞ 1月18日（金）～2月20日（水）
＜場 所＞ 大阪市立東成図書館
＜内 容＞ 実物資料展示、パンフレットの配布等
＜参加者＞ 14,637名

⑪ 大阪市立中央図書館

<日 時> 2月8日(金)～2月20日(水)
<場 所> 大阪市立中央図書館(西区)
<内 容> パネル・実物資料展示、パンフレットの配布等
<参加者> 60,000名

⑫ 大阪市立浪速図書館

<日 時> 2月22日(金)～4月17日(水)
<場 所> 大阪市立浪速図書館
<内 容> 実物資料展示、パンフレットの配布等
<参加者> 12,700名

(2) 「語り部」の派遣(紹介)

学校等からの「語り部」の派遣依頼に対し、関係団体(大阪戦災傷死者・遺族の会、大阪大空襲の体験を語る会、国民学校と学童疎開を考える会)の協力を得て、「語り部」の紹介を行った。

<登録協力団体> 3団体(大阪戦災傷死者・遺族の会、大阪大空襲の体験を語る会、国民学校と学童疎開を考える会)
<参加者> 6,761名

4. その他の事業

(1) 「第25回 日本平和博物館会議」の運営(他館との連携)

戦争の惨禍を人々に伝え平和の実現に資することを目的とする博物館等が協力して調査・研究等を行い、相互の連携を図りつつ平和推進事業の一層の発展を期する。

<構成館> 広島平和記念資料館、長崎原爆資料館、沖縄県平和祈念資料館、ひめゆり平和祈念資料館、ピースおおさか など10館で構成。
<事務局> 構成館が年度毎順番に担う。平成30年度はピースおおさかが担当した。
<開催日> 11月8日(木)～9日(金) 大阪城天守閣等を視察。

(2) 「北朝鮮人権侵害問題啓発」

(政府拉致問題対策本部・大阪府・大阪市・府内全市町村主催)

<日 時> 12月16日(日) 午後2時～4時
<内 容> パネル展示、映画上映等
政府の取り組み報告
映画「めぐみー引き裂かれた家族の30年」
パネル展示
<参加者> 153名

5. 「刻の庭」の管理運営

大阪空襲死没者の追悼及び恒久平和を祈念するため、2005（平成17）年度に整備した「刻の庭」の管理運営を行うとともに、大阪空襲死没者名簿の管理（人数の精査を含む）、新規登載申出の受付等を行った。

＜空襲死没者名簿（原簿）の管理＞

- ・追加登載者数：19名（うち、2名は非公開）

※2018年度新規登載数は17名であるが、調査により2名（平成23年5月申出者）の登載洩れがあることが判明したため、追加登載を行った。

- ・登載者数計：9,105名（平成31年3月31日現在）
（内訳）公開9,057名（刻の庭前で公開）、非公開48名

6. 資料の収集・提供

(1) 資料の収集・提供

実物資料、視聴覚資料、図書資料の適切な収集と管理に努め展示への利活用を図るとともに、「収蔵品管理システム」により資料の整理、保存、公開を行った。

収蔵庫および収蔵室の燻蒸作業を実施するとともに、収蔵資料の整理を行った。

＜資料収集件数＞

単位：点

	寄贈資料	購入資料
実物資料	174	0
視聴覚資料	4	27
文書資料	123	0
図書資料	116	0
計	417	27

＜2019（平成31）年3月末の資料収集件数（収蔵検索システム登録件数）＞

- ・物品：10,098点
（実物 4,202点、文書 1,823点、視聴覚 3,908点、その他 165点）
- ・図書：33,909点

合計：44,007点

(2) 平和学習資料の貸出し

学校、官公署、市民団体等の要請に応じ、平和学習用資料（写真パネル、空襲体験画、ビデオ、DVD、16ミリフィルム等）の貸し出しを行った。

また、資料の充実に努めるとともに、特に遠方の学校等については、来館と同等の価値をもつ事業として広報に努めた。

	小学校	中学校	高 校	自治体	その他	計
写真パネル(体験画含む)	22	3	1	38	16	80
実 物 資 料	5	0	0	1	6	12
16ミリ (アニメ)	0	0	0	2	2	4
16ミリ (ドキュメント)	0	0	0	0	4	4
ビ デ オ	9	3	0	5	16	33
D V D	119	83	3	25	75	305
紙 芝 居	4	0	0	0	3	7
合 計	159	89	4	71	122	445

<利用人数> 145,392名(学校申込み件数 232件)

7. 広報・啓発

(1) ホームページの運営

ホームページにより施設利用案内や事業広報等の情報提供を行った。

また、有効な広報ツールとなるよう、音声ガイダンスを掲載するなど、適宜、ホームページの改良を行った。

<アクセス数> 83,625回(うち、日本は79,445回)

(2) 印刷物の作成・配布

リーフレット「展示のしおり」を配布するとともに、館報「ピースおおさか」を発行した。

(3) 学校等に対する多様な媒体を活用した広報

関係組織等へのダイレクトメールの送付、個別の架電や訪問などに取り組んだ。

また、府市、中核市の教育委員会や企業団体等に対して、当館を利用した教職員研修や企業の人権等研修リーダー育成研修の実施、貸出資料の利用を促した。

併せて、近隣の自治会や企業、観光ボランティア団体との連携を図った。

(4) その他

当財団と相愛中学校・高等学校とが相互に連携し、平和に関する企画事業や教育活動を実施することを目的として両者間で連携協定を締結した。

また、旅行業者を通じての来館増を図るため、4社と観光券契約を締結した。

8. 来館者サービスの向上

魅力あるミュージアムグッズについて検討を行い、新たにボールペンを制作した。

また、外国語表記の充実、館内案内表示の追加など、アンケート結果も踏まえて来館者のサービス向上に取り組んだ。

併せて、講堂や会議室の貸出について、府市に加え他の公的団体を含めるなど貸出対象の拡大、減免制度の適用を検討した。

なお、今年度の入館者総合満足度は、94%であった。

9. 自主財源（平和寄金）の確保

あらゆる機会等を通じて、平和寄金の趣旨（企画事業・特別展示等の原資）と寄附に係る税の優遇措置を説明し協力を求めた。なお、今年度の平和寄金収入は 1,302,054 円であった。

また、「ピースおおさか友の会」会員の新規拡大に努めた。

＜「ピースおおさか友の会」入会状況＞

- ・個人会員：71名
- ・団体会員：6団体

10. 運営体制の確保と効率・効果的な事業の実施

企画事業の充実を目指して、平和基金事業予算の拡大と事務局運営体制の充実を図るとともに、観光ボランティア団体の活用など、効率・効果的な事業実施等を行った。

また、収蔵品など既存ストックの有効活用に努めるほか、配布チラシの種類や配布先の検証、電気料金やNHK受信料の見直しなど、運営コストの抑制に努めた。

併せて、講堂や会議室の利用促進に努めるほか、府市と入館者増に向けた取組み状況・課題を整理するため、適宜、「集客等ワーキング」などを開催した。

11. 施設の保全・補修

ピースおおさかの長寿命化及び安全性・快適性の確保を図るため、平成 27 年度から 28 年度にかけて作成した「施設修繕計画」に基づき、補修工事を計画的に実施するとともに、引き続き必要な予算措置を府市に要請した。

＜平成 30 年度の主な実施内容＞

放送・照明設備更新、空調設備更新、スチール建具修繕等